

令和7年度廿日市市学力定着状況調査の結果より

廿日市市立廿日市小学校

<第1学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	81.5	76.7	74.9	6.2
算数	86.5	84.1	78.6	7.4

<課題と取組>

○国語科では、二つの情報を一つにまとめて書くことと、誰が言った会話文なのかを読み取ることに課題がある。日頃の授業で、キーワードをいくつか出し、その中から二つ以上組み合わせて文章を作る機会を設ける。また、繰り返し本文の会話文を中心に誰が言ったのかを、本文から考える活動をする。

○算数科では、示された資料から必要な要素を選び、適切な文章問題を作ることに課題があった。授業や宿題等で、絵や資料を基に問題作りをする機会を設ける。また、問題文をしっかり読んでいないための誤答も多かった。線を引きながら問題文を丁寧に読んでいくことや、いろいろなパターンの問題に触れる機会をつくる。

<第2学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	81.8	79.6	79.3	10.7
算数	77.9	74.0	71.3	12.5

<課題と取組>

○国語科では、カタカナで書く言葉にはどんなものがあるのかを再度おさえて、繰り返し練習に取り組む。カタカナの50音プリントを活用して復習させていく。説明文の読み取りでは、問題文をしっかり読んで、問題文に使われている言葉を文章から見つけたあとに答えを見つける練習に取り組む。

○算数科では、具体物に触れさせて、かさの単位を習得させる。給食の牛乳200ml=2dlなど、身近なもので単位換算をする体験を積ませる。数直線の1目盛りの大きさの読み取りでは、様々な種類の数直線に触れて、1目盛りの大きさを見極める練習に取り組ませる。

<第3学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	82.1	76.4	76.7	10.3
算数	79.7	73.0	72.7	10.2

<課題と取組>

○国語科では、言葉や漢字などの基礎的な知識の定着と、内容の読み取りに課題があった。漢字の定着を図るため、毎日小テストに取り組ませる。問題文を読まず、思い込みで読み進めてしまう傾向があるため、問題を読んだ後に問題を説明する時間を設けるなど、自分が理解したことを他者に表現する場を設定し、正確に問題を読み取る力を付けさせる。

○算数科では、基本的な概念を使って問題を解くことに課題があった。既習事項を使って解き方を説明させることで、なぜそのような解き方ができるのかを理解させながら学習を進めるようにする。また、定規やコンパス等、用具の使い方にも課題があるため、繰り返し使わせて、用具の使い方に慣れさせる。

<第4学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	71.8	71.9	74.9	23.6
算数	72.2	67.7	78.6	26.0

<課題と取組>

○国語科では、既習漢字の定着ができていない。また、文章を読んで考えを共有することや、事例を挙げながら話すこと、連体修飾語についての理解や叙述を基に段落相互の関係を捉えることの正答率が低かった。文章の中で既習漢字を使えるように授業や家庭学習でも声かけをし、日記や授業のノートを書かせていく。また、朝や授業の隙間時間を活用して、短い文章の練習問題から取り組ませ、感想を書いたり、文章を書き抜いたりする。

○算数科では、小数で表している重さの単位変換や工夫した計算の仕方の説明、小数のたし算の正答率が低かった。4年生の学習の復習の時間に、丁寧に計算させたり、手本を見ながら自分の言葉で説明させたりするような練習問題に取り組ませる。また、じっくり計算するために、+、-の計算が混じった問題を継続的に取り組ませる。

<第5学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	79.8	73.9	69.1	9.7
算数	72.2	67.4	62.0	27.4

<課題と取組>

- 国語科では、目的に応じて文章を簡単にまとめて書くことに課題があった。文章を読む際のポイントを見つけながら問題を読み解く力を付けさせていく。そのために、朝の時間や授業の時間を利用し、プリントを活用したり児童の知っている話を要約してまとめたりする練習に取り組ませる。
- 算数科では、文章から立式すること、基礎的な計算を解くことに課題があった。問題から図・式を作る力、基礎的な計算を正確に解く力を付けさせていく。そのために、プリントを活用したり文章問題において図・式を示して関連付けたりする練習に取り組ませる。

<第6学年>

	本校	市内	全国	60%未満
国語	79.8	73.5	70.8	11.2
算数	79.1	72.9	73.1	9.5

<課題と取組>

- 国語科では、複数の情報の関係を捉えて文章を書くことに課題があった。文章を書く力については、書く前に情報を表や図などで整理する活動を取り入れ、情報同士の関係を明確にする指導を行う。また、接続語の使い方や推敲の視点を示し、文章全体を整える力の向上を図る。
- 算数科では、変化と関係（比と比の値）についての理解に課題があった。全体と部分の関係を図に表して整理する活動をしたり、「単位量あたり」を求める考え方を繰り返し指導したりする。また、具体物を用いた体験的な活動や、実生活と関連付けた問題に取り組む。